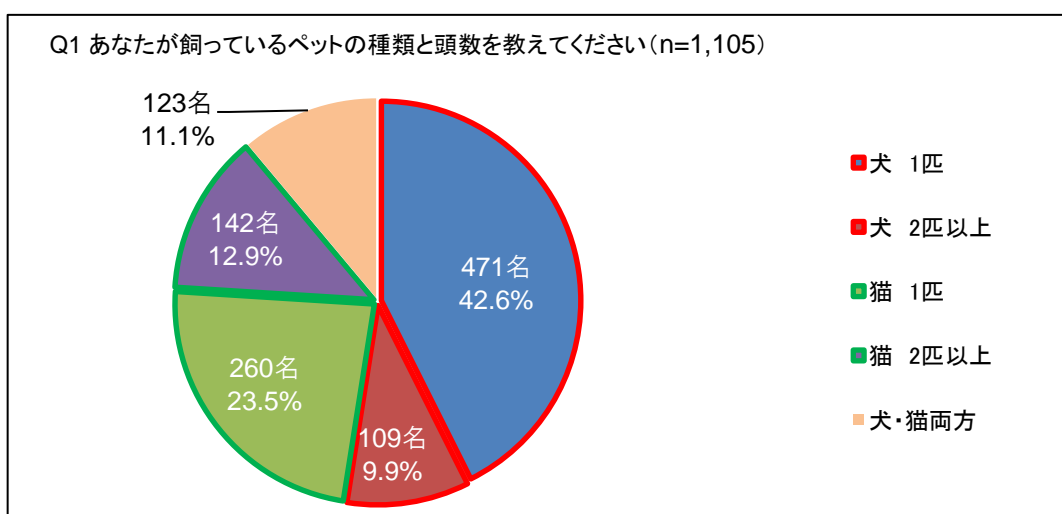


(参考資料)

◎アンケート調査結果の詳細

1. 調査方法と飼育ペットの種類と頭数

- ・インターネット調査にて 6,206 名の方に飼育ペットの有無を聞いたところ、現在ペットを飼っている方は、1,776 名(全体の 28.6%)、うち犬を飼っている方は 953 名(同 15.4%)、猫は 773 名(同 12.5%)となった。
- ・「犬・猫」を飼っている方を対象にペット関連支出・飼育環境等を聞いたところ、1,105 名(20 歳以降、各年代男女各 100 名以上)の方から回答を得た。
- ・この 1,105 名の方の飼育状況は下図の通り。犬を飼っている方は全体の 52.5%(赤枠)、猫は 36.4%(緑枠)と犬飼育者が猫飼育者を上回っているが、犬も猫も両方飼っている方が 11.1%いることも判明した。
- ・犬と猫を 2 匹以上飼育する「多頭飼育」の比率が、犬(9.9%)、猫(12.9%)となり、犬・猫両方を合わせ、全体の 33.9%を占める結果となっている。



2. アンケート結果

① ペット関連支出(月額)

- ・「ペットにかけている支出(月額)」を聞いたところ、「わからない」と回答した 160 名を除く 945 名の方の単純平均月額は、11,459 円となったが、全体の中央値、最頻値ともに 5,000 円であった。
- ・犬と猫別(平均値)にみると、1 匹飼育では猫の支出額は犬の 62%程度、多頭飼育でも 65%程度と低い数値となった。一般的に「犬よりも猫の方が飼育費は低い」と言われているが、その通りの結果であった。また、犬・猫の両方を飼育されている方の平均値、中央値がともに高くなっている。

	回答者数	平均値(円)	最頻値(円)	中央値(円)
犬 1 匹	401	9,396	5,000	5,000
犬 2 匹以上	95	16,964	20,000	10,000
猫 1 匹	220	5,872	5,000	5,000
猫 2 匹以上	118	11,121	5,000	6,000
犬・猫両方	111	25,634	10,000	15,000
合計	945	11,459	5,000	5,000

・次に、年代別と世帯別の平均値をみてみると、世帯別では、三世帯世帯が最も高く、親と同居の二世帯世帯と夫婦のみが1万円台と低い値となっている。一方、年代別では、20代が最も高く、40代が1万円を割る水準となっている。

	回答者数	平均値(円)
単身	110	11,421
夫婦のみ	230	10,535
二世帯世帯(親と同居)	219	10,361
二世帯世帯(子と同居)	268	12,414
三世帯世帯	104	13,611
その他	14	9,857
合計	945	11,459

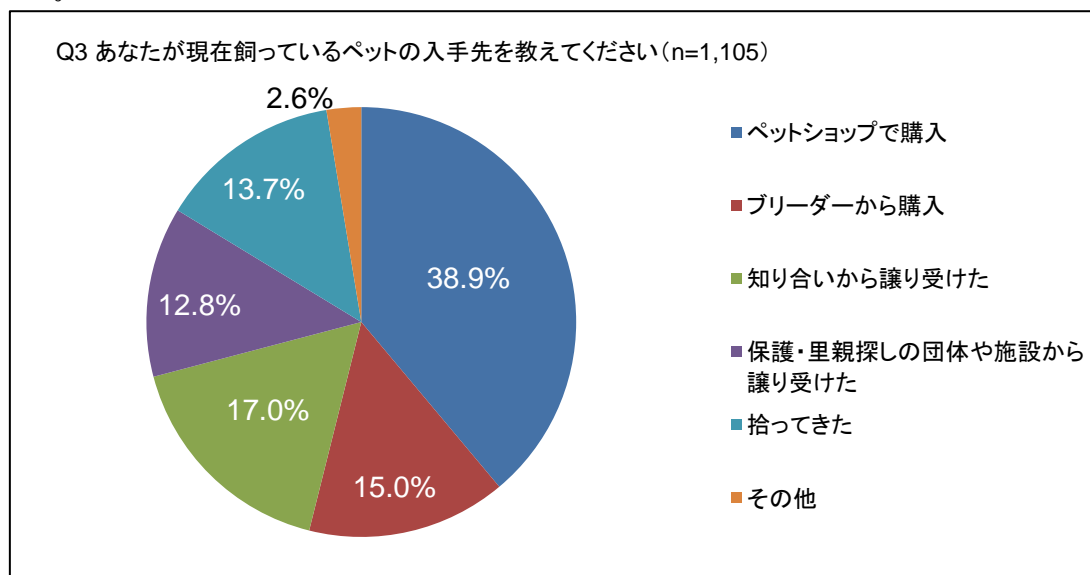
	回答者数	平均値(円)
20代	173	14,009
30代	194	11,646
40代	194	9,850
50代	198	11,020
60歳以降	186	11,039
合計	945	11,459

◆風呂内亜矢ファイナンシャルプランナーコメント／①について

犬に比べ猫の費用が低めに出たことや、多頭飼いでは支出が増えていることは納得の結果でした。年齢別の平均値の違いで、特に20代の金額が高く出ている点は興味深いですね。食べ物やアイテムなどにこだわりがあり、支出がかさむ可能性も考えられます。

② ペットの入手先

・「ペットの入手先」を聞いたところ、「ペットショップでの購入」が38.9%と一番多く、続いて「知り合いから譲り受けた(17.0%)」、「ブリーダーから購入(15.0%)」、「拾ってきた」「保護団体等から譲り受けた」の順となった。



- ・これをペットの飼育種類別にみても、大きな違いがあった。犬は「ペットショップ・ブリーダーから購入」した方が多く、猫は「譲り受け・拾ってきた」方が多いと大きくわかれた。
- ・犬のみ飼育者 580 名のうち、447 名(比率 77.1%)の方が、ペットショップ・ブリーダーから購入し飼っているのに対して、猫のみ飼育者では 402 名のうち、309 名(同 76.8%)の方が、譲り受けか拾ってきて飼っているとの結果となった。
- ・犬の場合、1 匹では「ペットショップ購入」が過半を占めるが、多頭飼育になると、「ブリーダーから購入」の比率が増え、一方、猫の場合、1 匹では「知り合いから譲り受け」「拾ってきた」方が多く、多頭飼育になると「保護団体等から譲り受け」「拾ってきた」比率が増加している。

	回答者数	ペットショップ購入	ブリーダー購入	知り合いから譲受	保護団体等から譲受	拾ってきた	その他
全体	1,105	38.9%	15.0%	17.0%	12.8%	13.7%	2.6%
犬 1 匹	471	55.0%	21.9%	14.6%	6.4%	1.5%	0.6%
犬 2 匹以上	109	45.9%	32.1%	5.5%	10.1%	1.8%	4.6%
猫 1 匹	260	18.5%	2.7%	27.7%	17.3%	29.6%	4.2%
猫 2 匹以上	142	7.0%	4.9%	19.0%	25.4%	36.6%	7.0%
犬・猫両方	123	51.2%	11.4%	11.4%	15.4%	10.6%	0.0%

③ ペット飼育と居住環境

- ・犬・猫飼育者の居住環境を確認してみると、持家一戸建ての方が飼育種類・頭数を問わず、過半数を超え、特に犬 2 匹以上と犬・猫両方では 74%以上の高位となった。猫飼育では 1 匹でも 2 匹以上でも賃貸の方が 20%以上と、賃貸でも猫は比較的飼いやすいという傾向が現れた結果となった。

	回答者数	持家一戸建て	持家マンション	賃貸	答えたくない	その他
全体	1,105	66.7%	13.2%	17.4%	2.3%	0.5%
犬 1 匹	471	67.5%	13.0%	16.1%	2.8%	0.6%
犬 2 匹以上	109	76.1%	12.8%	8.3%	2.8%	0.0%
猫 1 匹	260	59.2%	16.5%	21.9%	1.9%	0.4%
猫 2 匹以上	142	64.1%	12.7%	20.4%	2.1%	0.7%
犬・猫両方	123	74.0%	8.1%	17.1%	0.8%	0.0%

◆風呂内垂矢ファイナンシャルプランナーコメント／②と③について

犬はペットショップやブリーダー、猫は知り合いや保護団体、拾ってきたなどの比率が高く、入手先の違いが大きく出た結果となりました。当初にかかった費用が高いと、以降の飼育費用にけるコストも心理的に高くなりやすい(あるいは高くできる経済状況にある)など、相関があるかもしれません。

④ ペット飼育での節約の有無

- ・「ペット飼育当初から現在まで、ペット関連支出のために、ほかの生活費を節約したか」と聞いたところ、全体的には、7 割弱の方が「節約していない」との回答となった。また、節約した方に何を最も節約したか、費目(単一回答)を聞いてみると、「交際費等」が一番多く、続いて「身の回り費用」となっている。
- ・ペットの飼育種類別にみても、「節約していない」方の比率は、猫 1 匹の 78.8%に対して、犬・猫両方だと 47.2%と大きな較差が現れている。さらに、1 匹飼育と多頭飼育では表の矢印のように、多頭数となると節約意識が高まっている。このように、ペットの種類と頭数によって、節約への意識が異なる結果が見られ、これは飼育ペット種類の平均支出金額とも相関した傾向となっている。

	回答者数	節約していない	節約した	うち	うち	うち	うち	その他
				交際費等節約	食費節約	身の回り費用節約	公共料金等節約	
全体	1,105	68.9%	30.4%	12.7%	7.0%	7.9%	2.8%	0.8%
犬 1 匹	471	▲72.2%	27.0%	10.0%	6.8%	8.1%	2.1%	0.8%
犬 2 匹以上	109	57.8%	↓41.3%	20.2%	9.2%	7.3%	4.6%	0.9%
猫 1 匹	260	▲78.8%	21.2%	11.5%	5.0%	3.5%	1.2%	0.0%
猫 2 匹以上	142	66.9%	↓31.0%	12.0%	5.6%	11.3%	2.1%	2.1%
犬・猫両方	123	47.2%	52.0%	19.5%	11.4%	13.0%	8.1%	0.8%

(注)節約した方の比率は、各節約した費目に回答された方を合計した数値

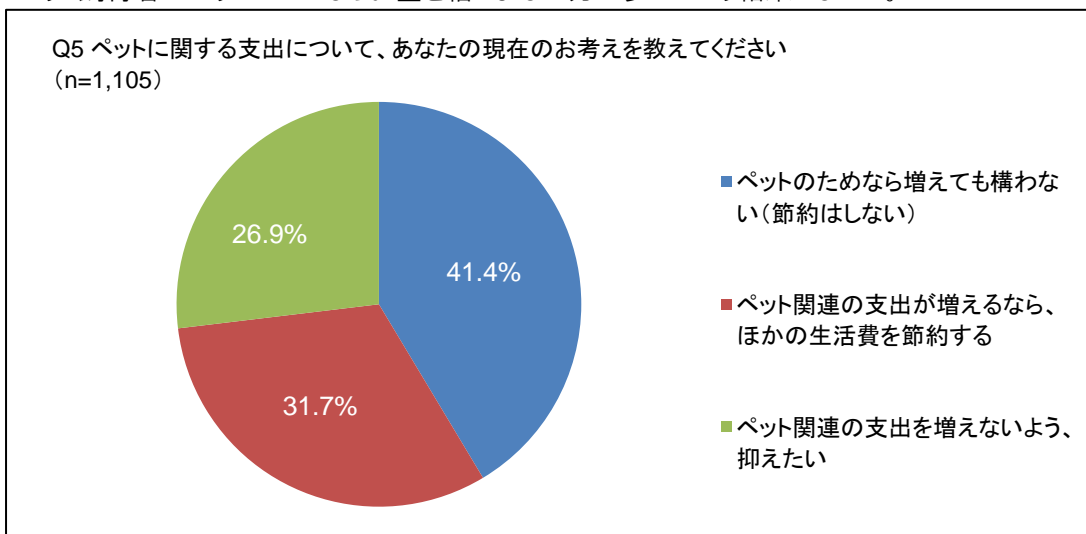
・次に節約の有無と世帯年収との比較をしてみると、節約していない比率が「300 万円未満」層では約 60%、「300～499 万円」層と「500～699 万円」層では 60%半ば台、「700～999 万円」層と「1000 万円以上」層では約 70%と徐々に増加している。

	回答者数	節約していない	節約した
全体	1,105	68.9%	30.4%
300 万円未満	144	59.7%	38.2%
300～499 万円	189	66.7%	32.2%
500～699 万円	231	65.4%	34.3%
700～999 万円	195	70.3%	29.8%
1,000 万円以上	147	↓69.4%	29.2%
答えたくない等	199	79.9%	19.5%

⑤ 今後のペットに関する支出増に対する考え

・「今後のペット関連支出の増加にどう対応するか」と聞いたところ、「ペットのためなら増えても構わない(節約しない)」と答えた方が 41.4%と最も高く、続いて「ほかの生活費を節約する」方が 31.7%、「ペット関連支出を節約する(26.9%)」が最下位となった。

・ペット飼育者はペットのためならお金を惜しまない方が多いという結果となった。



・先の④の回答との相関をみたところ、ペット飼育当初から節約していない方は、今後も節約しない方が多く、逆に節約した方は今後も節約するとの回答となった。

	回答者数	節約していない	節約した
全体	1,105	68.9%	30.4%
ペットのためなら増えても構わない (節約はしない)	458 (41.4%)	74.0%	25.5%
ペット関連の支出が増えるなら、ほかの生活費を節約する	350 (31.7%)	54.6%	44.6%
ペット関連の支出を増えないよう、抑えたい	297 (26.9%)	77.8%	20.8%

(注) ()書きは全体に対する比率

・さらに、世帯年収との相関をみたところ、「ペットのためなら増えても構わない(節約しない)」方の比率が年収が高くなるにつれ上昇しており、ペット関連支出を惜しまないことが伺える。

	回答者数	ペットのためなら増えても構わない (節約はしない)	ペット関連の支出が増えるなら、ほかの生活費を節約する	ペット関連の支出を増えないよう、抑えたい
全体	1,105	41.4%	31.7%	26.9%
300万円未満	144	36.1%	34.7%	29.2%
300～499万円	189	37.6%	34.9%	27.5%
500～699万円	231	42.9%	34.2%	22.9%
700～999万円	195	43.1%	32.3%	24.6%
1,000万円以上	147	61.2%	19.7%	19.0%
答えたくない等	199	31.2%	31.7%	37.2%

◆風呂内亜矢ファイナンシャルプランナーコメント／④と⑤について

犬と猫両方を飼っている人以外では、ペット飼育のために節約をしている意識は過半数の人がなく、ペットを飼うことと節約意識の相関は低い傾向がみられました。節約をした人の中では交際費の割合がやや高く、家計管理において交際費が調整材料になりやすい費目である可能性がうかがえます。

なお、同社では昨年に家計に関する節約意識と行動に関するアンケートを実施していますが、その際に節約した項目のトップは「公共料金等」でした。今回は最も低く、ペットを飼うことと公共料金を抑えることの関係性は薄いと考えている人が多いと考えられます。

なお、世帯年収とからめてデータを確認すると 300 万円未満の世帯では、ペット飼育のために節約をした割合や、ペット関連費用の支出を抑えたい割合がやや高めに出る傾向にあります。経済的に余力があるとペットとお金の相関は低くなりやすいものの、収入の状況によってはその限りではないことがわかります。

以上

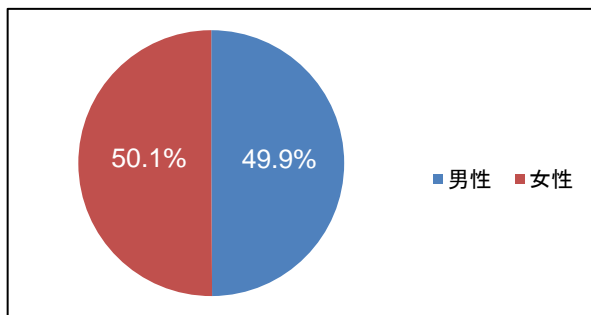
◆風呂内亜矢氏(ファイナンシャルプランナー)のプロフィール



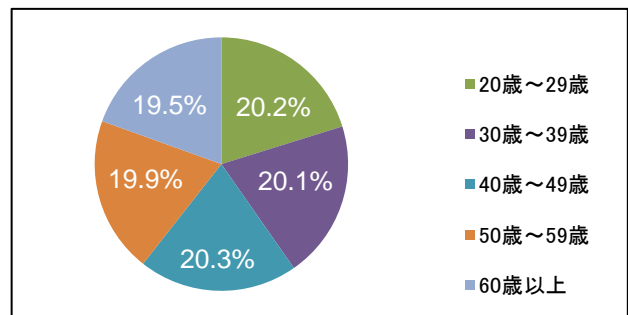
1級ファイナンシャル・プランニング技能士、CFP®認定者。
貯蓄80万円しか持たずマンションを衝動買いしたことをきっかけに、節約や資産運用など、お金の取り組み方を改善。現在では夫婦で4部屋の物件を所有し、賃料収入を得ている。
2013年より独立。新聞、テレビ、雑誌、Webコラムなどでお金に関する情報を積極的に発信している。
著書に「その節約はキケンです(祥伝社)」、「ほったらかしでもなぜか貯まる!(主婦の友社)」など多数。

■回答者属性

【1】男女別の割合(n=1,105)



【2】年齢別の割合(n=1,105)



【3】世帯別の割合(n=1,105)

